

徳島県総合計画審議会「新未来創造部会」会議録

I 日 時 平成30年5月8日（火） 午前10時30分～11時30分

II 会 場 徳島県庁10階 大会議室

III 出席者

【委員】14名中 8名出席

金貞均部会長、大森千夏委員、中村太一委員、松崎美穂子委員、
植本修子委員、小田大輔委員、黒田忠良委員、宮脇克行委員

【県】

政策創造部長 ほか

IV 議題

- 1 新たな総合計画の策定方針について
- 2 その他

《配布資料》

資料1 新たな総合計画の策定方針について

V 会議録

1 新たな総合計画の策定方針について

事務局より新たな総合計画の策定方針について説明の後、意見交換が行われた。

（金部会長）

ご説明いただいた「策定方針」について、何かご質問、ご意見等ございましたら、ご発言をしていただきたいと思います。どなたからでも結構ですので、お願いします。小田委員、お願いします。

（小田委員）

E B P Mというもので、質問なんですけど、E B P MでK P Iにすべき指標というのは、なんとなく人口とか税収とかってというのが分かると思うんですけど、実際、庁内で具体的に税収とかというものを捕捉して、それを政策評価に生かすというようなことで考えられているのでしょうか。

（事務局）

現行の計画におきましても、ご承知のとおり、幅広く主要施策段階でK P Iに対応するような目標

も設定させていただいているところでありまして、個別事業段階におきましてもそれぞれ目標等も設定しております。また、現状、課題の把握に際しましても、できる限りこういったデータ、それから根拠のある形で、それを把握して、施策の検討につなげていきたいと考えておりますので、小田委員がおっしゃられた点も含めまして、今回の計画におきましてはさらにブラッシュアップと申しますか、EBPMの理念に沿った形で、目標設定等をしっかりとやっていきたいと考えております。

(小田委員)

そういうことでしたら、かなり職員に統計であるとか財政といった知識が必要になると思うんですが、大学との連携の中で、例えば職員を大学院に、たくさん県内の大学に派遣して、職員を教育していくということは、現在考慮されているのでしょうか。

また、地方の大学は、人口減少で入学者数が大変だと思いますので、県職員自ら、頭脳をパワーアップさせていくことで、もう少し自分たちで政策立案ができるような計画にしていくことを、考慮されることを期待します。

(事務局)

今回の計画策定にあたりましても、策定手法で大学との協働ということで挙げさせていただいております。現状の把握、それから課題設定等におきましても、県が持っているデータ、あるいは資料的なものだけではなかなか十分に詰め切れない部分もございますので、当然その部分は、県内大学等の専門的知見を踏まえて、助言やご提言をいただきながら、検討していく必要があると考えております。

また、それぞれ大学での強み、専門分野がございますので、そういった観点からも、例えば、本県がこれから力を入れて進むべき方向性であるとか、ポテンシャルの分析でありますとか、どんな戦略分野が考えられるのか、そういった点につきましても、大学から助言、ご提言をいただければと考えております。

(小田委員)

ありがとうございます。最後にエビデンス・ベースドとおっしゃるからには、具体的な数値指標として、税収は外せないのではないかと思います。何か政策を打ったら、それで税収は上がったのかということを、連携して考えて欲しいと思います。

人口に関しては、減っていくことは間違いないので、自然現象みたいなものですから、それについて対策はする必要があると思うんですけど、大きな流れに逆らうというよりは、財政のほうは私の中では、私団塊ジュニア世代ですけど、死ぬまでの間には何とか下り坂を安定して社会を平穩に保っていただけるような政策というのが、大事なのではないかなと思います。

(政策創造部長)

持続可能な行政という意味においては、自主財源、県税収入というのは、非常に大事なところでございます。しかし、直接的に税収は語りにくいところがございます。例えば、経済活動、産業活動で、農業分野であったり、工業分野であったりだとか、それぞれの生産活動の積み重ね、あるいは県民の皆様様の活動の積み重ねで、税収があるということでございます。例えば、農業分野、本県農業県でもございますけども、品種ごとの出荷額だとか、海外出荷額とか、そういう落とし込んだところで、エビデンスを持って、今の立ち位置から更にどうしていくのか、そこをどう伸ばしていくのか、そのようなところにアプローチを一生懸命して参りたいと考えております。

(小田委員)

企業における売り上げと同じように、皆さんの売り上げは税収ですので、最終は国から交付金をもらうというのもありだとは思いますが、やはり税収をアップするような政策とか、県税上の範疇ではないけど、国税でも、消費税の数値を捕捉するとか、いろいろ方法はあると思うので、数字をエビデンスベースでいくのであれば、きちんと数字を元に、経済効果のようなバクっとしたのではなくて、もっとそれをやることで、この数字がインジゲータとして有効ですみたいな話を職員の皆さんがやらないと、なかなか僕ら民間の人間は、全く法律の制度とかは詳しくないので、そこはプロの皆さんが知見を持って、政策を実行していただきたいと思う次第です。

(金部会長)

エビデンス、つまり証拠に基づく政策立案ということは、とても大事なことなんですけど、小田委員もおっしゃったように、分析とか評価ができるような人材を大学だけに依存していいのかということがあります。その一方でエビデンス、良質なデータをどう確保するかという部分もあるかと思いますが、その点と関連して、策定手法のところ、大学との協働とはなっていますが、この部分に関しては、産学官の連携がとても大事だと思います。しかし「産」との協働、産業、現場の高い技術に対する連携とか、そういった実践的な部分での、産学官連携の「産」の部分が、ここには打ち出されていないので、どのように考えているのか確認をしておきたいと思います。

(事務局)

策定方針の中では、特にポイントという形で、大学との協働を挙げさせていただいておりますが、当然、金部会長がおっしゃったように、産業面、産業分野の方々とのそういった連携、あるいはご意見等を計画にしっかりと反映していくことが重要と考えております。そういった中で、産業分野も様々な団体さんがございますし、そういった方々にも計画策定の段階で、適宜、ご意見やご助言、アド

バイスを頂きながら、計画にしっかりと反映できるように努めていきたいと考えております。

(金部会長)

はい。では、引き続きご意見をお願いします。

(黒田委員)

意見というよりは感想になりますが、若者の意見を積極的に聴取するというのは、大切なことでいいことだと思います。今、高校生に私はビジネスクラブの指導に行っておりますが、多種多様な意見を持っておりまして、それを集約するのが大変だという現実があります。発想があって、口にして皆に伝えようとするのは分かるんですが、それを一つにあるいは二つにまとめるということがなかなか難しいので、そこを担当される方は、相当ご苦労されるのではないかなと思います。

それと、今年に入って徳島の過去の事を検定という形で、一般の方々、大学生が受けるという検定制度、これは趣味の範囲なんですが、検定制度がありまして、その合格率を見てみると、社会人は90%以上の合格率があるのに、現役の学生さんは10%未満というような結果がありました。これまでの流れであるとか、歴史であるとか、経緯であるとか、そういうものを分かっていないというか、理解できていない部分があって、次のことを発言すると、もっと勉強をしてから今の発言をしてもらえるかなといった、現場ではそういった意見があったりします。

新しい意見、若者の意見を抽出するのはいいんですが、ある程度、これまでの経緯であるとか、教育というか情報伝達を先におかないと、多種多様な意見が出てきて、まとまりがつかないということになるのではなかろうかという感想を持ちました。

(事務局)

今、黒田委員から、若者の意見は重要だと、様々な意見があって集約が大変だろうというお話をいただきました。まさにそういった部分はあろうかと思います。今回の計画策定におきましても、これから10年後、2030年頃等々を考えますと、その頃に社会人の中核になる方が、今の高校生や大学生の方ということで、そういった方が自分がこれから進んでいく未来、どういうイメージを描いているか、この計画を考えていく上では、非常に重要な要素になると考えております。そういったことで、若い方々の意見はしっかりと聞いていきたいと考えております。

その上で、まずは、アンケートとか、先ほど申しましたフューチャーセッション、こういったことを通じて、今の若い方々がどんな意見、将来に対してのイメージを持っているのか、まず把握をして、集約等々につきましては、若者クリエイト部会の皆様のご意見を踏まえながら、単に一つ二つにまとめるというより、できるだけ計画に反映していく、取り組んでいくようなそういった形で考えていければと思っております。

もう1点、若い方々、ご紹介があった検定ですとか、過去の経緯とかそのあたりがなかなか知っていないという話もございまして、十分ではないかもしれませんが、フューチャーセッションの中でも、いきなり将来に対してのイメージとか考えを聞くというよりも、徳島県がこれまでこんなことに取り組んできたんだよと、計画策定前はこういう状態だったけど、こういうことに取り組んできて、それに立って将来をイメージできるような、しかけと言いますか、取組というものを考えていきたいと思っています。できるだけ、黒田委員のおっしゃられたような観点にも留意して、意見の聴取に努めていきたいと思っています。

(金部会長)

ありがとうございます。

県民としての役割が自覚できるような教育が大事でもありますし、意見を聞く場を、教育の場としても担えるように考えて実施したら、効果があるのではないかと思います。基本的に調査というものには教育的意味もあるわけなんですよね。そういう意図を持って、意見聴取の時間を有効に使えば、いい機会になると思います。

他にいかがでしょうか。中村委員お願いします。

(中村委員)

策定の項目で、テクノロジーのことが書かれております。

また、内閣府と総務省のホームページの資料も参考で付けていただいております。まさに、IoT、ロボット、AI、ビッグデータ、報道を見る限り、すごく進化が早いなという印象を受けております。そういう中で、どの行政機関もこのテクノロジーを新たに取り入れていかなければならない、普及啓発していかなければならないと痛感しているのではないかと思います。おそらく他府県でも同じような政策を考えておるのではないかと思います。徳島では有数のITの企業だったり、大きな企業がたくさんございます。ITを売り出してきた県でもありますし、ぜひ同じようなことをしなければならぬこともあろうかと思いますが、先駆的、先進的なものを徳島で。昨年ですかね、行いました知事の記者会見、阿波おどりの案内にもAIを用いたり、どんどんと先んじてしていただけるように、ぜひよろしくお願ひしたいと思っています。

(事務局)

中村委員からお話がありました、IT、AI等に関する分野でございますけども、策定のポイントでも挙げさせていただいたところでございますが、計画だけ捉えましても、4年前から比べても、特に技術の進展・進度が早い分野で、それによって創られる未来像というものも、4年前に考えている未来像と、大きく変化しているというように私どもも実感しているところでございます。

中村委員おっしゃったように、県内にもITの有数の企業もある、特に本県におきましては、サテライトオフィスとか、そういった取組の中で、県外からも非常にアイデアあふれる取組をされている企業さんが県内に立地をしてきている状況でございます。そういった方々のご意見も十分踏まえながら、徳島ならではのそういった先駆的、先進的な取組について、新たな計画の中でもしっかりと打ち出して参りたいと考えてございますし、将来像についても、そういった点を踏まえながら、考えていきたいと思っております。

(金部会長)

ありがとうございました。

松崎委員をお願いします。

(松崎委員)

クリエイト部会が5月11日に開催されるということですが、クリエイト部会のメンバーはもう既に決まっているとは思いますが。広く県民からの意見を聴取するという事で、大学生アンケートとかはありますが、子育て世代の方で若者というか、この若者の定義はどんなかなと思われました。子育てしている人達も若い方がいらっちゃって、そこで福祉に関する目線というのをご意見いただけたらなと思っております。大学という、4大学が多いんですけど、看護学部、徳大の看護学部の学生さんとかとも、私も、年に1回授業させてもらうんですけど、大変熱心に、保健師さんとか助産師さんを目指していらっしゃる学生さんの意見等もありますので、そのあたりのご意見もいただけるように幅広く、集めていただけたらなと思っております。若者クリエイト部会も5月11日だったら平日なので、10時から17時の間の会議にはなると思うんですけども、市町村の職員さんでもあれば、仕事の間にはなると思うんですけど、これは不可能かもわかりませんが、土曜日、日曜日とか、アンケートで意見は取り入れられると思うんですけど、本来、平日だけじゃなくて、平日のこの会議とかに来られないような世代、立場の方も含めて土曜日とかの開催とかそういうのも必要かなと思っております。福祉分野、そういうところのご意見もいただけたらなと思っております。

それから、今からでは残念ながら遅いのですが、「おぎゃっと21」、県内最大級の乳幼児イベントが5月3日、4日、今年で17回目を迎えてもう終了したんですけど、このイベントは次世代育成支援イベントとなっております。私たちも徳島新聞社の方と第1回目から、企画を練ってきて、実行委員ではあるんですけども、学生さん、専門学校の学生さんと4大学の学生さんが次世代というかたちで、遊びの広場を提供して下さって、17年となるとその時に高校生、大学生だった生徒さんがまた結婚して子どもさんを連れて「おぎゃっと」に参加されるというこのサイクルが来ております。その3日、4日の2日間であればかなりの意見、アンケートがとれたなと今、後悔しきりなんですけど。そういう場面も、県の大きなイベント、子育てフェスタ等もあるので、活用しながらアン

ケート調査をとっていただければなと思っております。以上です。

(事務局)

ただいま、松崎委員から、県民の意見を聴取する中で、子育て世代というお話を頂きました。これから、県民の皆様からの意見募集の作業に入っていくわけでございます。そういった中で、特に、子育て世代と限定しているわけではないんですけれども、例えば、アンケートの中で、子育て世代の方を念頭においた例示をすとか、フューチャーセッションの中で、子育て世代の方々、地域の方々にも参画をいただくというようなことも考えていきたいと思っております。それから、特に子育て世代を対象としたイベントがございましたら、私どもの方でも、庁内庁外問わず、県民の皆様の意見の把握にあたって連携をしっかりとっていききたいと思っておりますので、そういったものがございましたら、ご教示をいただければと思います。

(金部会長)

どうもありがとうございます。

大森委員お願いします。

(大森委員)

広く県民からの意見を聴取するという事で、県民アンケートとか、高校生・大学生へのアンケートが書かれています。

その中より意見を取りまとめて、長期ビジョンや中期プランの骨子案を取りまとめるということですが、2060年とか2030年とか、かなり長期計画になるということ、先ほど事務局の方からのご説明で、IoTとか人工知能(AI)などの技術の発展が著しいということ、まずアンケートを取る前提で、今後社会がどうなるのかというのを、今分かる範囲で先に情報提供しておいたほうが、アンケートで答えやすいというか、全く白紙の状態で答えるよりかは、様々な意見が出るのではないかと思います。単にアンケートを取るというのではなくて、その前に県から何か情報提供すとか、それこそ大学とか産業の方々からご協力を得て、今後どういう未来が待っているのかという例示をお示しすとか、そういうのが必要ではないかと思いました。

(金部会長)

どうでしょうか。

(事務局)

県民アンケート等を実施するにあたって、皆様が将来像をイメージできるようなヒントであります

とか、材料を合わせて提示してはどうかというご意見をいただきました。

具体的に実施方法につきましては、今、私どもも検討をしているところではございまして、どういった形で対応ができるか、検討していきたいと思います。

(金部会長)

将来像が描ける、イメージできるという状況にいるのかどうかということも大事なことですし、先ほどの徳島に関する教育ということも、将来像を描くという意味でも大事なことから、そういったことを元に、多様な立場、人々から意見を収集することで、良質なデータが集められることにつながるのではないのでしょうか。

では、植本委員お願いします。

(植本委員)

大きく分けて2つぐらいだと思いますが、1つがデータに基づくという、私も広告業界ですっとおりまして、クライアントのKPIですとか費用対効果とか、そういったことをずっと追いかけてきていつも思っていたんですけど、なかなかそういうデータに基づいた結果を出そうとすると数字を追いかけることになりまして、それで数字を追いかけると何かというと、一過性のものになりがちというか、とりあえず今期の間は何組集めようとか、そういうことになりがち、まあなるというか、そういうのを避けるためにどうしたらいいのかなって結構考えて、答えなんか誰も持っていないと思うんですけども、そこってすごく注意が必要だなっていつも思っていたので、もしかしてこういった行政の中で何かデータでは無い結果を出す出し方みたいなものって、何か良い情報があるんだったら共有できたらいいなと思ったりですとか。

もう1つは、徳島ならではの書いてあるんですけど、徳島ならではの徳島らしいってどういうことなのかなっていうのを、どういうふうに捉えているのかは聞いてみたいと思います。

それと、その徳島ならではの紐付いているかなと思うんですけど、私は西の方に住んでいるのでこちらの情報で言いますと、ちょうど世界農業遺産を取ったところでして、みんな盛り上がってはいるんですけど、どこかにみんな心の中でそれをどう活かして行ったらいいのか、せっかくそうやって世界から注目されている農業についてもそうですし、祖谷とかそっちの文化に対しても、日本の原風景という部分に関して、ちょっと観光寄りの意見になってしまうかもしれないんですけど、観光だけではなくて魅力の1つとして、阿波踊りとかもちろん素晴らしいんですけど、そういったどこにも真似が出来ない、続けてこなければいけないこと、経年変化もそうですし、そういった魅力みたいなものをうまく活用できる方法があればいいなといつも思っています。特に、食と農の景勝地とかその当辺りについては、うまく産業にのせることができないタイプだと思うので、何か良いやり方があれば、ここ数年の間に頑張った方がより良い結果が出せるんじゃないかなと思うので、この場を借りて

皆さんに意見として共有したいと思って来ました。以上です。

(事務局)

今、植本委員から、KPIとか費用対効果、そういったものを数字で追いかけるという部分については注意する必要があるとのお話を頂きました。まさにそのとおりだと思います。行政は、従来からなかなかそういった効果把握でありますとか、目標設定につきましても、民間に比べても甘い、あるいは十分ではないと言われてきたことがございます。そういったところをしっかりと見直して、できるだけ定量的に効果等も把握できるような取組を進めるとともに、委員がおっしゃられた点にも十分に注意をしながら、より良い目標設定でありますとか、効果把握を考えて行きたいと思っております。

それから、徳島らしさとはなんぞやというようなお話もありました。私見も入るかもしれませんが、やはり徳島ならではの資源を活かしていくということというのはまず1つあるのかなと思います。その上で、現場と言いますか、県民の方々、地元の方々の意見、アイデアを活かした形で施策を練る、あるいは事業を考えると、そういったような形になっていくのかなと。それが他県にないとか、そういったような形に繋がっていくのかなと考えているところでございます。特に地方創生の分野につきましては、新たな総合計画をこれから検討していくにあたって、そういった視点も大切にしながら徳島らしさ、徳島ならではの施策をしっかりと盛り込んで行けるように検討して参りたいと思います。

(政策創造部長)

私からも、思うことも含めて、お話させていただきます。確かに徳島らしいというのをなかなか一言、あるいは定量的に言い表すのはもちろん難しいところではあります。前段に言っていただきました数値を追いかけるうぬぬんと言うところもあるんだと思いますが、生きがいであったりやりがいであったりとか気持ちの問題、充足感みたいところ、そういうところは非常にこれからの時代で一面では求められているところがあって、もちろん経済活動的なものもあるんですけど、そういうところがあって、我々「vs東京」で新しい価値感に基づくライフスタイルというのをプロモーションして提唱していきますが、徳島で生活して生きるということはそういうところに1つの何かがあるのではないかなと思っております。そういった意味で植本委員も徳島に来ていただいて、地域の活動をしていただいている、あるいは先ほど世界農業遺産の話もありましたけど、その地域で取り組んでいるものが新しい価値軸で見直せたりとかする、それが1つの、徳島らしさの1つの現れであると思います。あるいは松崎委員のお話もありましたけど、いろんな地域でそれぞれの分野で活動、活躍していただいている方、子育ての分野もありますし、例えば、環境でゼロ・ウェイストの上勝とか枚挙にいとまがないですが、いろんな地域で活動していただいている、そこが、その集大成が徳島らしさということであるのではないのかなと思っております。我々それも先日プレス発表したんですが、そういうのを地

方創生の一環で10のヒントといった形で、地域でとんがって頑張っている人達をプロモーションするというような形のウェブも作らせていただいたところでもあり、先ほど他の委員からもお話ありましたけど、そういうところ、例えば若い人、学生の皆さんにもこうなんだよという、まさしくビジュアルも含めて見ていただく中で、若い人達にこれからの10年後あるいは40年後どうなのというのを考えていただく、そこも少し何とか工夫をしてみたいなと思っております。今日いろいろ、非常にありがたいご意見を頂いたと思ってございますので、また今後ともよろしくお願い申し上げます。

(金部会長)

どうもありがとうございます。量的なデータと、その一方で質的なデータをどのように吸い上げるかということはとても大事な課題かと思えます。

それでは宮脇委員お願いします。

(宮脇委員)

アンケートのところが興味があるんですが、若者の意見をたくさん取り入れるというのはとても重要なことだと思うんですが、それをまとめる方はさぞ大変だろうなとは思っています。

大学では高校生とか県民とは違って、他の県からも来られている方もいらっしゃいますし、あと大学に入りたての学生と就職活動をし始めた学生では当然意識が違うでしょうし、そういうのでどこにターゲットを絞ってアンケートを出すかというのも重要だと思います。それと、実際にアンケートを答える人が意見を出すんですけど、その意見が実際その後どうなっていくかという過程を示してあげるのが良いような気がします。単に意見ちょうだいというのではなくて、自分の意見がこうなってどこにあがっていくというような形も示してあげると、良い意見が出るかもしれないなと思いました。

(事務局)

宮脇委員からもお話があったように、他県の方も集まっておられる、それから大学入りたて、それから卒業間近の方でもいろいろ意識も違うだろうということで、私ども、大学ともこれからご相談しながら、どういった形で意見を寄せていただくか、その点はしっかり考えていきたいと考えております。それから、そういった意見がどのように計画の中で反映をされていくのかという過程の話もございました。それにつきましても、例えば長期ビジョンのこういった部分、あるいは中期プランのこういった部分と、このようにまとめてこれをここに反映していくと、そういったプロセスにつきましても、これからいろいろご意見を頂きながら、できるだけ目に見えるような形にできるように考えていきたいと思っています。

(金部会長)

意見を貰ってそれをフィードバックさせる、可視化できるようにするとか、それで実感が持てるようにすることはとても大事だというような意見かと思います。どうもありがとうございます。他にご意見ありますでしょうか。

(小田委員)

先ほど、数字の話をしたんですけど、もう1回確認しておきたいんですが、やはり観光ですと、観光客が増えますよね。増えた時に確実にお金が貰えるのはJHとかJRだと思うんですよ。たぶんそれすごい人が増えて、道が渋滞したから道を拡幅しようみたいな話になるんですよ。その時、地元の企業はもちろんその恩恵は受けていると思いますけど、どれぐらい恩恵を受けるんだということだと思うんで、例えば観光客を例にとってますけど、他にも例はいっぱいあると思うんですが、本当に地元企業に資本蓄積というか、利益があがっているのかというような政策をきちんと考えて欲しいと思うんですよ。そうしないと、人を雇おうとか雇用を増やそうということは考えないと思います。徳島県は99%中小企業ですので、そういう企業に本当に資本蓄積がなされたかどうかというようなエビデンスをきちんとして欲しいし、例えば企業によってはもしかしたら赤字になっているかもしれないけど、じゃあ何人雇って何人の従業員にきちんと給料を払っているというような、そういう、もちろん組織は企業だけじゃなくて団体もあると思いますけど、やはりそういう端的に経済活動が行われたじゃなくって、徳島県の中に富が残ったというようなことをよく考えないと、藍商人の伝統とかでも考えると、藍によって基本的にたくさんの資本が蓄積されたから、再投資できて発展できたというような歴史があるので、基本はそういうことをエビデンスとして考えて欲しいと思います。そうしないと、徳島県にたくさんお金落ちましたけど、全部県外に流れて行ってしまいましたっていうことでは、それでも僕は良いと思うんですけど、そうではなくて、中小企業にきちんと資本蓄積されるような、何か政策なり長期的なビジョンを持って考えて欲しいと思います。

野球をちょっと例に取りますと、皆さん考えて欲しいんですけど、スコアボードが無い野球で試合に勝てることってないと思うんですよ。だからエビデンスというのは、我々は今何点入ってるのということがチーム全員が共有できているから、チームとして動ける訳なんで、スコア共有が出来てない中で、みんなでチームプレーしようとか言われても、いや監督何点入ってるんですかね、いや俺も分からんみたいな話では、到底進むべき方向が見えないので、スコアボードの共有というのをしたいなと蛇足で思いました。

(事務局)

小田委員からお話の点は、まさに政策の効果把握に関わる部分かと思います。特にその点につきましては、行政は今まで弱い部分といわれてきたところでございますけれども、個々の政策、それから事業の効果把握の点につきましては、どういった指標を持ってそれを把握していくのかというのは、資

本蓄積にだけに関わらず重要な点であると思います。具体的な施策レベルの話は、もう少し先の話になって参りますが、小田委員からお話のあった点も十分念頭において検討していくようにしたいと思います。以上でございます。

(金部会長)

どうもありがとうございます。他によろしいでしょうか。他にご質問等が無いようでしたらこれで意見交換を終了したいと思います。

なお本日の部会の審議の経過及び結果については、徳島県総合計画審議会部会設置規定第3条第2項の定めにより、総合計画審議会の近藤会長に報告させていただきます。

県においては、委員の皆様から頂いた貴重なご意見やご提言を踏まえ、新たな総合計画の策定に向けた作業を進めていただきたいと思います。なお、本日の会議の内容について、疑義等ございましたら、後日でも結構ですので、事務局の総合政策課までご連絡いただけたらと思います。

本日委員の皆様にはお忙しい中ご足労いただきありがとうございます。最後に事務局から何か連絡事項等ございますでしょうか。

2 事務局説明

・会議録の公表については、事務局で取りまとめた上、金部会長に確認いただいてから、発言者名も入れて公開したい。

(以上)